

## 知床データセンターの今後の方向性について（案）

環境省 釧路自然環境事務所

## 1. 知床データセンター（以下知床DC）の経緯と現在

知床DCは世界自然遺産登録のための科学委員会やワーキングに対し、共通のデータベースを構築し提供することを目的に、平成17年度より運用を開始した。

平成17年・18年度では主たる地図、衛星・空中写真画像、GISデータを整備し、これに加え文献や各種調査報告書のメタデータを一部整備するとともに、科学委員会等の会議資料も時系列に収納している。

3年目の平成19年度はデータの整理、機能の見直し、他の情報サイトとの棲み分けを含め、知床DCの方向性を検討している。

## 2. 科学委員会等委員からのヒアリング

平成17年～19年の3年にわたり、同センターについて科学委員会やワーキングの委員に聞き取り調査を実施。その結果、現在までに以下のような課題や希望が寄せられている。

- \* 文献や調査報告書はメタデータだけでなく原本データ(PDF)の収集
- \* 文献リストの精査・整理および管理キーワード(指標種など)での文献や調査報告書の全文検索機能の充実
- \* ワーキング関連で行った調査結果の図面や報告書の整備
- \* 経年変化をモニタリングする上で、衛星および空中写真画像の継続的収録
- \* GISに関しては各種の測地系への対応
- \* GISのデータファイルのダウンロード機能
- \* 今後のデータの提供について、他のホームページとの棲み分け
- \* 白地図や申請書類等の提供
- \* インターネット回線の遅いユーザーへの対応

## 3. 海外のデータセンターから学ぶこと

データセンター的な役割をインターネット上で構築している海外先進事例を平成19年度に調査し、以下のような示唆を得ている。

- \* 管理行政機関とNPO関係のHPは内容に棲み分けができています。
- \* 法律、規制に関する情報提供が多い。
- \* モニタリング情報、気候変動情報、プレスリリース情報なども収録されている。
- \* オリジナルデータのダウンロードが多くのHPで可能である。
- \* 多言語に対応したHPが多い。
- \* データの一部をHPに掲載というよりHPそのものが書庫という位置づけと見受けられる。

#### 4. 現在検討中の方向性

上記の経緯、現状の課題、海外での事例を踏まえ、次の方向で、知床DCのあり方の見直しを実施中。

(1) 知床の自然に関する情報の入り口的な役割を担うサイトを目指し、生物多様性センターのデータベース、知床国立公園のホームページ、その他関係機関のホームページ等との役割分担を明確にした上で、次の3つの機能について、独自に資料を収集・提供を行う部分と、他のサイトにリンクをはる部分とを使い分ける。

- ①データベース機能
- ②情報提供機能
- ③研究ネットワーク支援機能

(2) 利用者をアクセス条件で仕切り（一般・登録メンバー（行政機関・関係研究者））段階的な情報提供を行う。